

# 中和印刷紙器株式会社

## KP-コネクトとK-サポートで 現場の意識をさらに上へ引き上げる。



代表取締役社長  
玉置 佳睦 氏

「会社全体に、時間を大切にすることを伝えるためにも、客観的なデータが必要でした」

常に「前進」をスローガンとして生産体制を強化してきた中和印刷紙器株式会社は、企画、デザイン、プリプレス、印刷、加工、仕上げへとスムーズに流れる自社一貫生産ラインによって、顧客の問題解決をサポートしてきた。近年の課題として「時間管理」を掲げ、KOMORIのオフセット機3台をKOMORIソリューションクラウド「KP-コネクト」でつなぐとともに、機械のコンディション調整や操作支援を行う保守管理サービス「K-サポート」を導入した。これらの効果について、玉置佳睦社長、生産部の橋本光平次長、豊田隆保係長、伊藤領康係長、森豊氏にお聞きした。

### 短納期への対応は メンテナンスが重要

中和印刷紙器(株)の玉置社長は、2016年からKOMORIのオフセット印刷機を立て続けに導入した。「短い納期の中で品質が求められる仕事が多くなり、対応していくためには、保守・メンテナンスに力を入れる必要がありました。そこで、メンテナンスや故障時に迅速な対応が期待できる、KOMORIのオフセット機に入れ替えることにしました」

判反転機構付2色オフセット枚葉印刷機導入に始まり、2018年H・UV搭載リソロンS26(菊半裁4色オフセット枚葉印刷機)を、さらに同年厚紙印刷にも対応するH・UV(L・LED)搭載リソロンG40(菊全判4色オフセット枚葉印刷機)を追加し、H・UVによる生産力の強化も同時に図っていった。新旧オフセット印刷機の置き換えが一段落したところで、次に取り掛かったのは、「時間管理」の改革だ。「受注産業としては『時は金なり』時間が全てです。前社長(現会長)の時代から時間に対する意識を高めよ

うとしてきましたが、改善の指標が漠然としていて、根本的な改善につなげられていませんでした」と語る玉置社長。そこで、さらなる効率化を目指し、KP-コネクトの導入を決定した。

### KP-コネクトの意義は 現場の意識改革にある

現在、KP-コネクトには前述したKOMORI機3台がつながっている。どのようなデータをチェックしているのか。玉置社長は「各機械の稼働率に加え、今月は何枚印刷したかなどを見ています。また、準備時間に関する数

値に問題があると、何が原因なのかを現場と共に分析しています」と、作業の改善や全体の最適化を図ることで経営面に役立てている。

一方、現場は、現場ならではの課題に取り組んでいる。全体の段取りやスケジューリングを担当する生産部の橋



生産部次長  
橋本 光平 氏  
「KP-コネクトはジョブごとに状況が見られて、仕事の段取りが分かりやすく、スケジュールの判断や調整もしやすいです」



生産部印刷課係長  
豊田 隆保 氏  
「KP-コネクトとK-サポートで、稼働率は30%ほど上がっています。他の機長と協力して一層高めていきたいです」



生産部印刷課係長  
伊藤 領康 氏  
「K-サポートで、当社の若手に直接アドバイスしてもらっています。KOMORIからの提案で、効果が上がっています」



生産部印刷課  
森 豊 氏  
「KP-コネクトによる客観的なデータがあることで、上司との打ち合わせ時に、より具体的な話をすることができます」

本社長は「KP-コネクトを入れてから業務の生産性が飛躍的に高まりました。その要因は、現場の時間に対する意識が変わったことにあります」と導入効果を挙げる。「特に見当や色合わせの時間を短縮し、稼働率をアップしています。月間で何かの数字が大きく変化すると、そこから課題が見えてきます。現場全体で課題を共有し、改善に取り組める環境ができてきました」

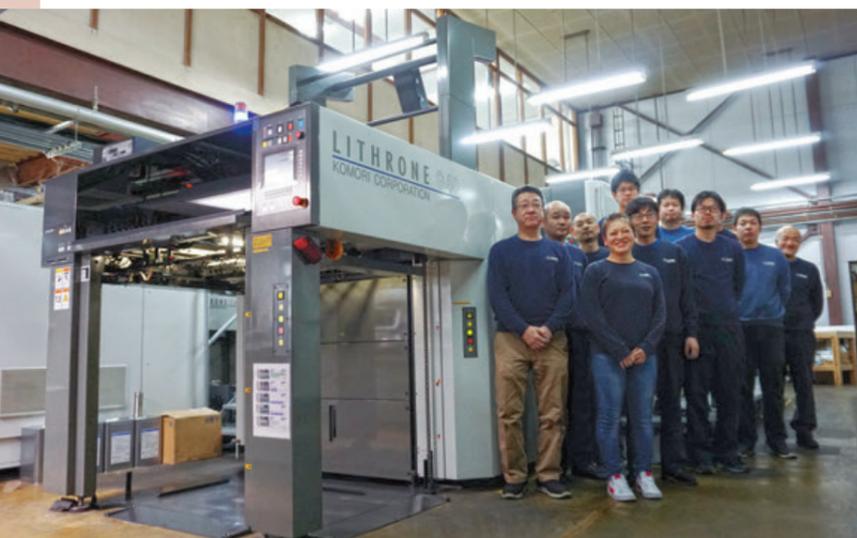
玉置社長は「自社だけで改善を行うよりも、KOMORIの分析やアドバイスを聞き、改善していく方が効率が良く感じています。例えば、当社は3台の印刷機がKP-コネクトにつながっていますが、作業に対する入力タイミングを統一するよう、KOMORIからアドバイスがありました。それを実行すると、とても分析しやすいデータが取れるようになった」と、K-サポートを評価する。さらに「経営者として機械をどのようにマネジメントしていくべきか、いろいろと提案してもらっていますし、現場の整理整頓など5Sへの意識改革にもつながりました」と続ける。

効率的に改善していくには  
K-サポートが欠かせない

玉置社長は「従来の、版を印刷機に取り付けてから見当マークを入れていたが、KOMORIの提案によって、製版の時に見当マークを焼くようになり、効率が上がりました。当たり前だと思っていたことの中に、改善の余地が多いことをK-サポートで実感しています」と生産面での活用を話す。



「技術を見て学ぶという時代は終わり、今は論理的に教えていく時代です。KP-コネクトとK-サポートの導入で、全体朝礼後に印刷課全員がミーティングをするようになりました。社員の意識を変えてくれました」と、橋本次長。



本社 / 和歌山県和歌山市久保丁4-53  
http://www.chuwa-print.com/  
TEL / 073-431-4411

